

金沢城の建物、兼六園の見どころ

石川門(重要文化財)

金沢城の搦手(裏口)門で、高麗門の二の門、櫓門の二の門、続櫓と二層二階建ての石川櫓で構成された枡形門で、金沢城三御門のひとつです。天明8年(1788年)に再建されました。枡形内の石垣は右と左で技法が異なり、右側は「切石積み」、左側は「粗加工石積み」です。



菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓 [平成13年7月復元]

二棟の三層三階の物見櫓「菱櫓」と「橋爪門続櫓」を、二層二階の倉庫「五十間長屋」でつないだ建築物です。明治以降に建てられた木造城郭建築物としては、国内最大規模です。内部は一般公開(有料)されています。



三十間長屋(重要文化財)

二層二階の多間櫓で、安政5年(1858年)に再建されました。倉庫として使われた建物で長さは26間半です。土台の石積みの技法は、「切石積み」ですが、表面の縁取りだけをそろえ、内側を粗く残す「金場取り残し積み」という技法が用いられています。



鶴丸倉庫(重要文化財)

城郭内に残っているものとしては国内最大級の土蔵です。武具が保管されていました。幕末の1848年に竣工し、明治以降は、陸軍によって被服庫として使われていました。石板を貼った外壁など、櫓や城門などとはデザインを変えています。



河北門

[平成22年4月復元]

金沢城の実質的な正門で、高麗門の二の門、櫓門の二の門、枡形土塀で構成された枡形門です。石川門、橋爪門とともに「金沢城三御門」と呼ばれ、二の門は城内で最大規模を誇ります。内部が一般公開(無料)されています。



旧第六旅団司令部

[明治31年建造]

木造瓦葺きのフランス様式を取り入れた平屋建ての建物です。中央に玄関があり、左右対称の外観です。レンガ積みの基礎に、腰から軒までの外壁はモルタル塗り、上下に開閉する窓が付いています。



橋爪門

[平成27年3月復元]

二の丸への正門として最も格式の高い門で、高麗門の二の門、石垣と二重塀で囲まれた枡形、櫓門の二の門からなります。「金沢城三御門」のひとつで、城内最大の枡形門です。二の門内部は一般公開(有料)されています。



玉泉院丸庭園

[平成27年3月完成]

2代藩主利長の没後、正室玉泉院(永姫)が屋敷を構え、後に利常(3代)が作庭を始め、廃藩時まで藩主の内庭として存在していました。池泉回遊式の庭園で江戸後期の姿を再現しています。池のほとりに庭園を一望できる玉泉庵があります。



鼠多門・鼠多門橋

[令和2年7月復元・完成]

かつて城の一部だった金谷出丸(現在の尾山神社)と玉泉院丸をつなぐ門と橋です。鼠多門は二階建ての櫓門で石垣を掘り込むように設けられています。門内部は一般公開(無料)されています。



金沢城の石垣

金沢城は「石垣の博物館」とも言われ、多種多様な石垣が現存しています。城の周りには野趣に富む高石垣、藩主の御殿や庭園周りにはデザイン感覚にあふれる石垣群を築くなど、場所によって石垣様式を使い分けています。



東の丸北面石垣

鶴の丸休憩館

[平成29年4月完成]

金沢城の歴史や復元施設等の情報を発信する機能を備えた休憩所です。内部からは橋爪門続櫓などの城郭建造物のパノラマを大判ガラス越しに望むことができます。コーヒーや軽食を提供するカフェがあります。



玉泉庵

[平成27年3月完成]

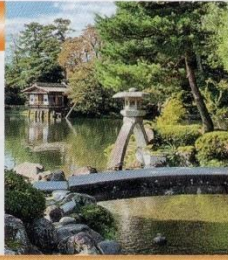
江戸時代に露地役所(庭の整備管理に関する役所)があった場所に庭園を一望できる休憩所として、完成しました。施設では休憩機能だけでなく、案内所や本格的な茶室を備えています。



兼六園の見どころ

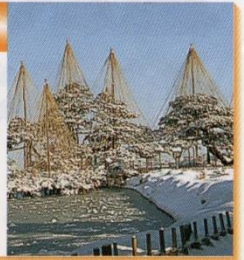
ことじとうろう 徽軫灯籠

徽軫灯籠は足が二股になっていて、琴の糸を支える琴柱に似ているのでその名がつけられたといわれています。この灯籠は水面を照らすための雪見灯籠が変化したもので、高さは2.67メートル。曲水に架かる虹橋と一体となって優れた風景を醸し出しています。



からさきのまつ 唐崎松

13代藩主・斉泰が近江八景の一つ、琵琶湖畔の唐崎から松の種子を取り寄せて育てた黒松。兼六園の中で最も枝ぶりの見事な木です。雪の重みによる枝折れを防ぐため、冬にほどこされる雪吊りは他の庭園では見られない、兼六園ならではの風物詩です。



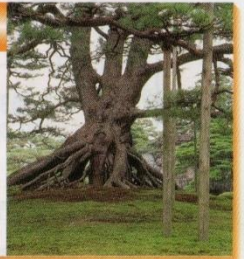
がんこうぼし 雁行橋

11枚の赤戸室石を使用し、雁が夕空に列をなして飛んでいく様をかたどった「雁行橋」。石の1枚1枚が亀の甲の形をしていることから「亀甲橋」ともいわれ、この橋を渡ると長生きするとされてきましたが、現在は石の磨耗が著しいため、通行できなくなっています。



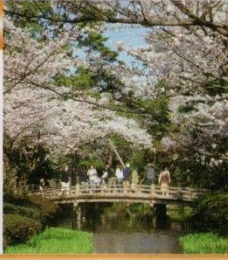
ねあかりのまつ 根上松

大小40数本もの根が地上2メートルにまでせり上がった奇観はたいへんな迫力で、兼六園名物の一つとなっています。この松は、13代藩主・斉泰が、松の根が地表近くに成長する性質を利用して土を盛り上げて若松を植え、根を深く土で覆い、成長後に土をのぞいて根をあらわにしたものだといわれています。



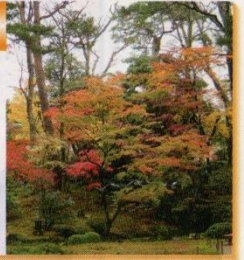
はなみぼし 花見橋

擬宝珠の欄干がある木橋。橋から見る花の眺めがすばらしいことから、この名前が付けられました。花の季節になると、穏やかに流れる曲水に沿って、桜、カキツバタ、サツキ、ツツジなどが咲き誇り、多くの人を魅了します。夏の緑陰、秋の紅葉、冬の雪景も見逃せません。



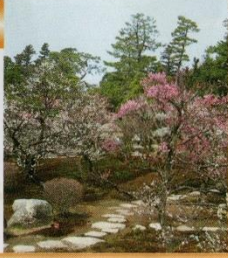
やまびきやま 山崎山

カエデ、トチノキなど落葉広葉樹が多く植えられており、秋になると赤や黄に美しく色づくので「紅葉山」とも呼ばれます。山腹には白川御影石で作られた五重の塔（御室の塔）があり、また、山麓の岩間から流れ出る水は、約570メートルの曲水となって霞ヶ池に注いでいます。



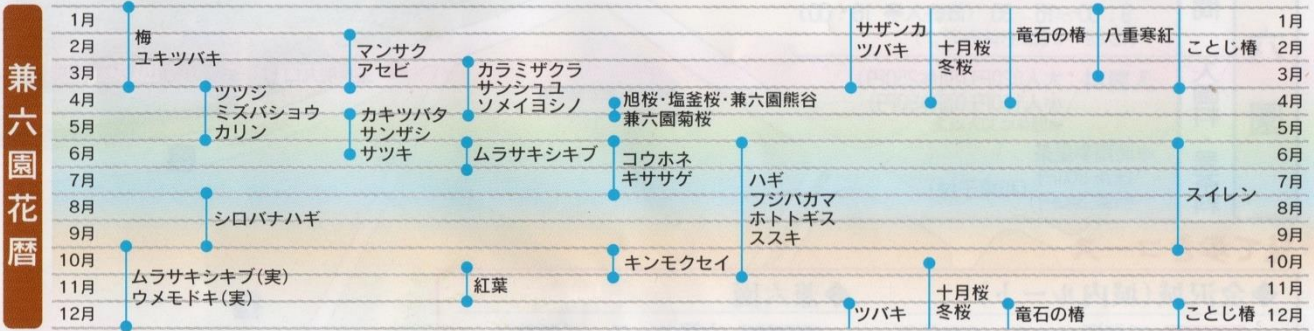
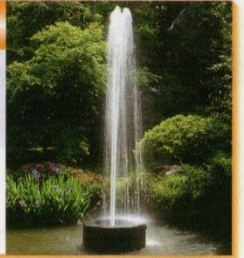
ぼいりん 梅林

昭和43年、明治百年記念事業として、北野天満宮、大宰府や湯島天神、水戸偕楽園などの協力により、全国の名梅を集めて造成されました。その後、平成12年度に長谷池周辺の庭園整備を終え、現在約20種類、約200本の梅が植えられており、3月になると紅白の花が美しく咲き誇ります。



ふんすい 噴水

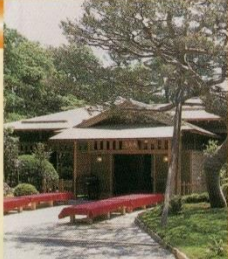
霞ヶ池を水源とし、池の水面との高低差による自然の水圧であがっています。水の高さは霞ヶ池の水位によって変わりますが、概ね3.5メートルです。藩政末期、金沢城内の二の丸に水を引くため試作されたものと伝えられており、日本で最古の噴水といわれています。



しぐれてい 時雨亭

(平成12年3月完成)

時雨亭は、5代藩主綱紀が建てた蓮池御亭が起源とされています。6代藩主吉徳が御亭を建て替え、藩政後期には時雨亭とも呼ばれるようになりました。現在の時雨亭は、当時の平面図をもとに現在の位置に再現した建物です。



●問い合わせ先

石川県金沢市丸の内 1-1 (〒920-0937)
石川県金沢城・兼六園管理事務所
TEL 076-234-3800 FAX 076-234-5292

※詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.pref.ishikawa.jp/siro-niwa/>



観覧券が堪能できます(有料)。上生菓子は2か月ごとに替わります。